

**製品名: RUNX2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87656**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:2000,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:57 kDa; Observed MW:55-62 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RUNX2
別名	CCD; AML3; CCD1; CLCD; OSF2; CBFA1; OSF-2; PEA2aA; PEBP2aA; CBF-alpha-1
遺伝子 ID	860, 12393, 367218
SwissProt ID	Q13950, Q08775, Q9Z2J9
免疫原	ヒト RUNX2 の合成ペプチド

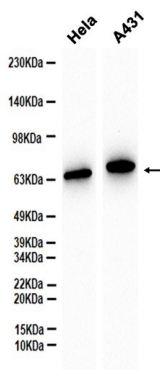
**背景**

この遺伝子は転写因子 RUNX ファミリーに属し、Runt DNA 結合ドメインを持つ核タンパク質をコードしています。このタンパク質

は骨芽細胞の分化と骨格形成に必須であり、骨格遺伝子発現に関与する核酸や調節因子の足場として機能します。このタンパク質は、単量体として、あるいはより親和性の高いヘテロ二量体複合体のサブユニットとして DNA に結合することができます。コードされているタンパク質の N 末端領域には、トリヌクレオチド反復伸長の可能性のある領域が 2 つ存在し、これらの変異を含むこの遺伝子の変異は、骨形成障害である鎖骨頭蓋骨異形成症 (CCD) と関連付けられています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする転写産物バリエーションは、代替プロモーターの使用と代替スプライシングによって生じます。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]

## 研究分野

## 画像データ



RUNX2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して、HeLa、A431 細胞抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。